

日本バドミントン協会メールマガジン【2026年3月号】

いつも日本バドミントン協会の活動に温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。
今月のメルマガでは、S/Jリーグ 2025 振り返りや全英オープン 2026 現地レポート、2026年度に向けたBAJの取り組みなどをお届けします。ぜひ最後までご覧ください！

■HOT TOPIC:S/Jリーグ TOP4 Tournament／今シーズン振り返り

2月28日-3月1日に開催された「マイナビ PRESENTS バドミントンS/Jリーグ 2025 TOP4 Tournament」では、過去最高の入場者数(2日間合計6,181人 ※昨年比1.6倍)を達成しました。

男子は桃田選手率いるNTT東日本が11年ぶり、S/Jリーグとなって以降では初となる、優勝を飾りました。女子はBIPROGYが2年ぶりに王者へ振り返りました。

リーグ初となるチャレンジシステムの導入や、場内解説サービス「チアホン」の実施、冠協賛をいただいたマイナビ様からの記念品の配布など、昨年に増して充実した大会となりました。



▼決勝ハイライト動画 | S/Jリーグ 2025 TOP4 Tournament



本文書を無断でダウンロードし、他への転載を禁止します。福島県バドミントン協会 総務委員会

日本バドミントン協会メールマガジン【2026年3月号】

S/Jリーグ 2025 シーズンは、関係者の皆様、パートナー企業の皆様のご支援のもと、平均来場者数が昨シーズンより約 200 名増加し、リーグ全体としても着実に成長を続けています。

また、各カテゴリー間の入れ替えも多く、リーグ全体に新たな動きが生まれました。

S/Jリーグトップカテゴリーでは、昨シーズン昇格した男子・丸杉、女子・Cheerful 鳥取が惜しくも降格となり、トップリーグの分厚い壁に阻まれる形となりました。

S/JIIからは男子・JR 北海道が 7 年ぶりにトップカテゴリーへ復帰。女子は PLENTY GLOBAL LINX が昨シーズン降格の雪辱を果たし、全勝で昇格を決めています。

S/JIIIでは男子トヨタモビリティ東京が創部以来初めてS/JIIへの昇格、女子は金沢学院クラブが 3 年ぶりにS/JIIへ復帰を決めました。

2026 シーズンも、より多くの皆様楽しんでいただけるよう、そして、よりエキサイティングな試合をお届けできるよう、リーガー同取り組んでまいります。

今後とも、S/Jリーグへの温かいご声援をよろしくお願いいたします。

■BIRD JAPAN TOPIC:全英オープン 2026 現地レポート (by 強化戦略本部・池田 信太郎)

3月3日から8日にかけて開催された全英オープン 2026。今回の視察の目的は、大きく二つありました。

一つは、日本代表選手が世界最高峰の舞台でどのような戦いを見せるのかを現地で確認し、日本の現在地と今後の強化の方向性を見極めること。もう一つは、大会と連動して実施されるジュニア育成プログラム「Junior Legacy Experience」を視察し、次世代育成の考え方や国際大会の価値設計を学ぶことでした。

全英オープンは、試合そのものの質だけでなく、会場の空気、観客の熱量、運営の完成度まで含めて世界基準を体感できる大会であり、日本バドミントンの未来を考えるうえでも非常に示唆の多い場だと感じました。Junior Legacy Experience は、全英オープンに併設された単なるジュニア大会ではなく、次世代選手が世界の舞台を体感し、自らの基準を引き上げていくために設計された育成プログラムです。



本文書を無断でダウンロードし、他への転載を禁止します。福島県バドミントン協会 総務委員会

日本バドミントン協会メールマガジン【2026年3月号】

競技面では、日本勢の中でも山口茜選手のベスト4が特に印象に残りました。世界のトップ選手が集まる中で、最後まで高い集中力を保ち、自分の持ち味である粘り強さと安定感を発揮しながら勝ち上がっていく姿は、日本バドミントンの競争力を改めて示すものだったと思います。結果そのものに加え、厳しい局面でも崩れずに戦い続ける姿勢、そして世界の舞台で当たり前以上に上位を争う存在感には大きな価値がありました。現地で試合を見て、トップレベルでは技術や戦術だけでなく、プレッシャーの中で自分を保ち、勝負どころで力を出し切る総合力が極めて重要であることを改めて実感しました。

一方で、今回特に学びが大きかったのが、バーミンガム大学で実施された「Junior Legacy Experience」です。金曜・土曜のナショナルチーム戦は、同大学の Great Hall で開催され、参加国はイングランド、デンマーク、中国、チャイニーズタイペイの4か国。最終日は選抜された混成チームによる特別試合が行われ、勝敗だけでなく、態度、レジリエンス、チームへの貢献、プレッシャー下での振る舞いまで含めて評価する設計になっていました。バーミンガム大学は英国を代表する研究大学群 Russell Group の一員であり、2026年大会に向けて全英オープン史上初の大学として公式パートナーになったことが公表されています。大学キャンパスを活用してレガシーイベントを実施するこの取り組みは、競技と教育、地域、次世代育成をつなぐ非常に象徴的なモデルだと感じました。

日本でも、競技力の強化だけでなく、若い選手が高い環境に触れ、自ら目線を上げていく機会をどう作るかが今後ますます重要になると感じています。



■News:2026年度にむけたBAJとしての取り組み(2026年度事業計画)

3月に開催された理事会で2026年度の事業計画について、承認されましたのでご報告をさせていただきます。

日本バドミントン協会メールマガジン【2026年3月号】

2026年度は、2025-2027年度の中期経営計画の2年目となります。

中期経営計画では

「日本代表強化」

「バドミントンファン拡大と事業収益拡大」

「国内トップリーグ(S/Jリーグ)のさらなる活性化」

などの目標を掲げて、取り組んでおります。

2026年度においては、財務規律として期末純資産残高の基準を設け、収支管理をしっかりと行いつつ、日本代表チームへの「心理・身体コンディション」支援、U24日本代表の新設などロスオリンピックを見据えた投資の強化や、ロスオリンピック後を目標とした国内トップリーグの改革推進検討、SNS等の有効活用によるファン拡大など、従前から取り組んでいるテーマをさらに強化するとともに、新たに昨年策定した「サステナビリティ基本方針(Rally for Earth)」の推進に向けて、日本財団と連携し、様々な取り組みを行っていく計画となっております。

2026年度におきましても、ぜひ皆様からの引き続きのご支援をいただけますと幸いです。

※2026年度の事業計画の詳細については、BAJ公式HPの以下からご覧いただけます。

<https://www.badminton.or.jp/corporate/baj/zaimu>